

平成21年度 未来へつなぐ福島の食育

3月18日(木)
 県北教育事務所
 ☎024-521-7726
 FAX024-521-7996

福島県では、平成19年度より学校における食育の方向を示す「～ふくしまっ子食育指針～」をもとに、子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていけるよう、学校教育全体で食育に取り組んでいます。

今年度の県北域内食育推進事業

今年度、県北域内で取り組んだ食育推進事業をお知らせします。

- 朝食摂取率100%週間運動
- 食育体験ツアー
- 食育推進モデル地域事業
- 農業高校を核とした豊かな食育体験
- 生産者、直売所等を活用した豊かな食育体験
- 高校生のための栄養教室

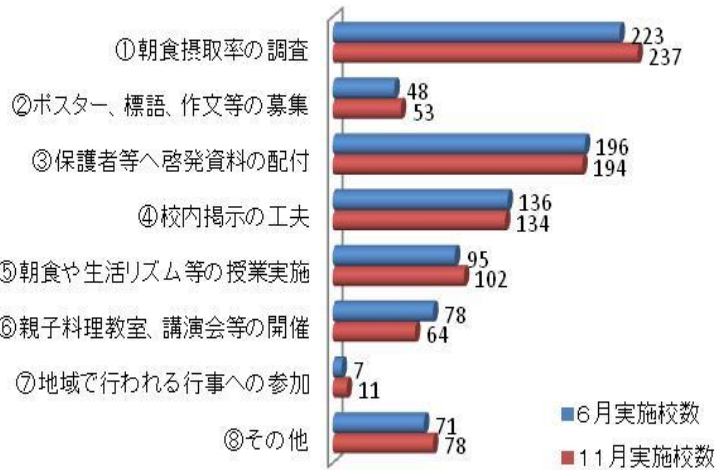


「食べる力」「感謝の心」郷土愛を育む食育指針



取組1 朝食摂取率100%週間運動

県北域内朝食摂取率100%週間運動実施結果

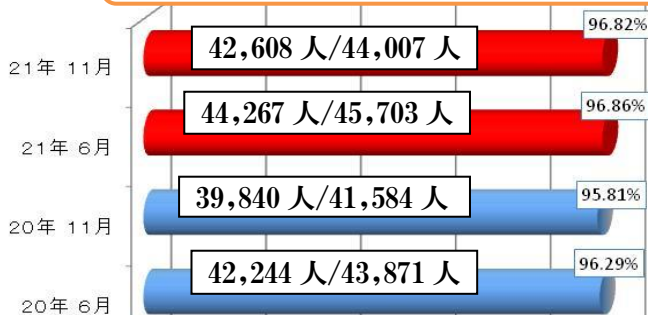


朝食摂取率100%週間運動の取組内容

福島県では、食に関する正しい理解を促しながら、関心を高め、朝食摂取を基本とした望ましい食習慣の形成を図ることを目的に、生活リズム向上強化週間として、朝食摂取率100%週間運動を年2回実施しています。

前年度との比較から、朝食欠食の改善がわかですが、見られました。また、県北域内高等学校の朝食摂取率100%週間運動実施は、昨年度は68.4%であったのが、今年度は100%実施となりました。朝食摂取率100%週間運動の定着が見られ、また、望ましい生活習慣と朝食摂取の重要性の認識が高まった結果であると思います。

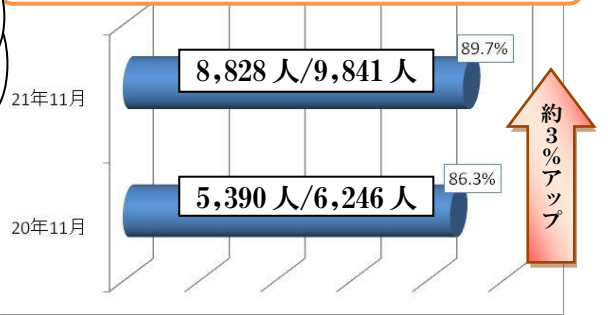
県北域幼小中特別支援学校朝食摂取率結果



約1%の増加がみられました。



県北域内高等学校朝食摂取率結果



約3%アップ

早寝早起き、しっかり朝ごはんが大切

取組2

スーパーマーケット食育体験ツアー



食育を推進する民間団体（5ADAY）の協力をいただき、スーパーマーケットでの食育体験ツアーを実施しました。スーパーマーケットに行き、買い物や調理活動を通して、野菜や果物等の食材の大切さや生産販売の過程を学び、また、地元産の野菜や果物（地産地消）についても学ぶことができました。



<p>店長さんからの話</p>	<p>栄養の座学</p>	<p>買い物を通して</p>
<p>販売についての話</p>	<p>野菜を使って調理</p>	<p>作ったサラダの試食</p>

取組3

食育推進モデル地域事業



福島県では、共同調理場を核とした「食育推進モデル地域事業」を行い、今年で3年目になります。本事業は、学校・家庭・地域との連携を図り、食育推進のネットワークを構築し、地域の教育力を活用して学校の食育を進め、県内に広く浸透させることを目的としたものです。県内6域内8地域が指定を受け、県北では、福島市北部学校給食センターと二本松市岩代学校給食センターが、今年1年間取り組みました。

福島市北部学校給食センター

福島市北部学校給食センターは、小学校9校、中学校5校へ1日約3,800食の給食を提供する大規模給食センターです。
センターでは、〈つなげよう！みんなの手、ひろげよう！食育の輪〉を合言葉に、学校・家庭・地域と連携し、子どもたちの健やかな体と心を育むことを目標に、モデル地域事業に取り組みました。

ふくしまっ子 食育指針



つなげよう！みんなの手 ひろげよう！食育の輪

ほ



本物の、「生きる力」の育成：食べる力

く



口から伝えよう、「ありがとう」「いただきます」の言葉：感謝の心

ぶ



文化や伝統を継承：郷土愛

- 〈食べる力〉を育むために
 - アンケートを実施し、子ども・家庭の実態を調査
 - 「食」を選ぶ力の育成・学びの時間の確保（計画的な授業や体験活動を通して）
 - ⇒ 食育年間指導計画の策定
 - 正しい食生活を営むための、見本となる「給食」の実施（和食文化・お米文化の継承）
 - 家庭での食育の応援（おたより・しんぶん等の発行）

- 〈感謝の心〉を育むために
 - 「食」をとおして地域とふれあい、豊かな心を育成
 - 体験活動を通し、自然の恵みや関わる人々に感謝（買い物体験ツアー、特別活動）

- 〈郷土愛〉を育むために
 - 郷土料理・行事食・伝統料理の継承（給食や家庭で継承、料理教室）
 - 地域交流試食会

◎組織機関
給食委員会（各校給食主任）・食育推進会議（給食主任・各機関食育担当者・協力農家・学校栄養職員・センター職員等）

「おいしい」「楽しい」体験を、心と体に残しましょう



二本松市岩代学校給食センター

岩代学校給食センターでは、伝統野菜を生かした地場の野菜や果物を学校給食に取り入れ、学校、家庭、地域、給食センターと連携して食に関する指導に取り組みました。

給食試食会、親子料理教室、学級担任と学校栄養職員の T・T による学級活動、食育体験学習、給食だより、保健だより、保健委員会等の啓発活動などの意欲的な取組がどの学校にも見られました。その結果、園児、児童、生徒はもちろん保護者にも食に関する高まりが見られました。このことは、朝食摂取率の向上という結果からも分かります。



全国学校給食週間に二本松市 統一献立実施 !



幼・小・中学校において献立は、「七穀米、牛乳、岩代五葉黒豆納豆、ひき菜炒り、あだたら汁（二本松市内の栄養士が考案）、羽山りんご」でした。さらに、栄養職員が作詞・作曲した「五葉黒豆納豆の歌」を CD にして学校給食に流したり、県内に PR したりすることにより、地域の活性化にもつながっています。

広報誌にも掲載される

取組 4

農業高校や地域と連携した豊かな食育体験事業

福島明成高等学校を核とした豊かな食育体験

福島市立大森小学校 2年生 156名
 福島市立信夫中学校 1年生 216名

福島明成高校で実施された食育体験では、福島市立信夫中学校1年生が手作りパンの製造、大根栽培体験学習を、福島市立大森小学校2年生がさつまいも栽培体験学習を行いました。



大根の種まきから収穫、そして大根を使った調理実習



さつまいもの定植

さつまいもを調理

お兄さんお姉さんに、たくさんのお話を教えていただきました。



高校生の指導でパンの成型から焼成までの加工実習



感謝の手紙とプレゼントを贈呈しました



この事業において、児童生徒は、農業高校生の協力のもと、野菜の種まきから除草作業、収穫、調理体験をとおして、野菜の栽培や調理に関する知識や技術を習得できました。

また、食材の関心を高め、自ら望ましい食生活を実践していく力（食べる力）、感謝する心を育むことができました。農業高校においては、小中学生との関わりを通して、学んできた知識や技術の定着化が図られ、共に作り味わう体験を通して、次世代の親になる世代として食を大切にしようとする心を育むことができました。



未来へつなぐ食育推進事業

「生産者、直売所等を活用した豊かな食育体験」

伊達市立小国小学校の5年生

5年生13名は、教科活動の時間に「かぼちゃ」を栽培し、収穫、販売、調理体験を生産者、関係機関と共に実施しました。

品種は、みやこ、雪化粧、栗坊、アントランチック・ジャイアントです。県北農林事務所の専門家から子どもにわかりやすい説明をいただき、ポット150個に種蒔きをしました。かぼちゃは、農業用コンテナに16個収穫され、大豊作でした。



11月の感謝祭に、子どもたちは、腕によりを掛けてかぼちゃの調理実習をしました。招待者（生産者、関係者）は、美味で、子どもたちの愛情いっぱいの料理に満腹な笑顔でした。さらに、1月の全国学校給食週間には、霊山農テク学校の講師による郷土料理「冬至かぼちゃ、きんぴらごぼう、白和え、切り干し大根炒め」の調理実習をしました。

霊山農テク学校の皆様による手作りの黒豆、梅干し、漬け物、あんぼ柿等、生産者からは、りんごジュースの提供があり、学校給食とともに郷土料理も盛り沢山味わうことができ、楽しく、とても満足な食事会でした。



彩りよく配食してます



小正月のだんごさしとても見事



とても大きく育ったよ！

取組5

高校生のための栄養教室



高校生対象の講演

近い将来、次代を担う親になる高校生、教職員や保護者に対して、栄養教諭が、県北域内の19高校へ食に関する講話、調理実習等を実施しました。

この教室は、未来につなぐ食育推進事業の1つとして、食に関する関心を高め、生活環境の変化に対応する実践力の育成や望ましい食習慣の形成を目指し、今年度より取り組みました。

テーマは、「受験のための食事」「一人暮らしのための栄養学」「食の安全・安心を求めて」等でした。



高校の教職員対象の講演

実施後は、各学校から「来年も、ぜひお願いしたい。」との要望も多く聞かれ、好評を得ることができました。栄養教諭は、各学校の食育推進コーディネーターと連携を図ることにより、効果的に「高校生のための栄養教室」を進めることができました。

○高校のお礼の手紙から



生徒からは「食事の摂り方、食事の内容、良質な睡眠について、

○高校の成果から

具体的に今日からどうすればよいか理解できた。」と

いう感想が多かった。勉強と部活動を両立させるためには、食事と睡眠を含めたライフマネジメントが大切なことに気づいたようだ。

先日はお忙しい中、ご講演をくださり、ありがとうございます。普段は何気なく毎日を過ごしてしまいがちですが、理想的な食事のあり方や望ましい睡眠時間について生活を振り返るよい機会となりました。私は今までは自分の食事に気を配ることは少なかったですが、体と頭によい生活について考えることができるようになり、また毎日の食生活を顧みることで、家族で健康や食事について見直す時間をもつことができました。

以前は食事といえば素早さ、簡単さばかりを考えてしまいがちですが、これからは勉強の効率アップのためにも健康維持のためにも、教えていただいたことを生活に生かしていきたいです。貴重なご講演を本当にありがとうございました。

(○高校3年生より)

平成 21 年度 県北域内の食育関連受賞紹介

◇「福島県食育推進実践校表彰」◇

福島県教育委員会は、年間を通して各校の実情に応じた効果的な食育の推進により、朝食摂取率や生活リズムの向上、園児、児童生徒の望ましい食習慣を形成、保護者の意識の高揚などの成果がみられた学校等を表彰しています。

本年度、県北では、幼・小・中・高・特別支援学校から 13 校の応募がありました。どれも力作でしたが、その中で 5 校推薦したところ、県内 13 校入賞の中、県北から 4 校が入賞しました。受賞した学校は、右表の通りです。おめでとうございます。

【 食育推進実践校表彰 県北域内受賞校 】

優秀賞	福島市立清水学校（2年連続受賞）
優良賞（幼稚園の部）	二本松市立新殿幼稚園
優良賞（小学校の部）	川俣町立飯坂小学校
優良賞（県立学校の部）	福島北高等学校

※ 朝ごはんコンテスト入賞については、前回ホームページに掲載いたしました。

◇「学校給食優良団体・功労者表彰」◇（主催：福島県学校給食会）

本宮市本宮方部学校給食センターが、受賞しました。おめでとうございます。

本表彰は、学校給食の実施内容が優良で、他の模範となる学校給食共同調理場として、本宮市本宮方部学校給食センターが受賞したものです。未来を担う子どもたちのために、ますますのご活躍をご期待致します。

◇「地域に根ざした食育コンクール」（主催：地域に根ざした食育推進協議会、農村漁村文化協会）

審査委員会奨励賞（特別賞）表彰」◇

二本松市立小浜中学校が、受賞しました。おめでとうございます。

同コンクールは、様々な食育活動を、活動の目的別に全国から募集し、すぐれた実践事例を表彰して食育の推進を図ろうと毎年開催しているものです。今年度は、全国 211 件の応募があり、その内 22 件の事例の中の 1 つに選定され、この度の受賞となりました。また、小浜中学校は、「美味しいはなし作文コンクール」（郡山主催）で学校奨励賞を受賞するなど、学校をあげて様々な食育活動に取り組んでいます。



～ 今年度の事業から ～

県北域内の食育の推進は、学校・家庭・地域の連携を図りながら、幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校それぞれの実態に応じ、各教育活動との関連を図り、素晴らしい成果を上げることができました。これも、各学校の食育推進体制の充実と校長のリーダーシップのもと、食育推進コーディネーターを中心とした校内の食育推進が機能したためであると思います。

児童生徒の「生きる力」を育むため、確かな学力や豊かな心とともに、健やかな体を作るための取組が求められています。県北教育事務所は、これからも、地域の食育推進コーディネーターとして、県北全域の食育推進の支援をしていきます。